

平成26年度 北九州市道徳教育推進事業報告書

学 校 名	北 九 州 市 立 槻 田 小 学 校		
住 所	〒805-0032 北九州市八幡東区松尾町9番1号		
電 話 番 号	6 5 1 - 5 1 7 6	F A X	6 5 1 - 5 1 4 3
校 長 名	勝山 優子	教員数	24名

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特別支援学級	合 計
学 級 数	3	3	3	2	2	2	0	15
児童生徒数	95	81	87	72	76	75	0	486

1 研究主題

豊かな心をもち、自らの成長を実感できる児童の育成

～ 児童が互いの考えを交流し、自分のよさに気付く道徳の時間の創造を通して ～

2 本年度の研究の概要

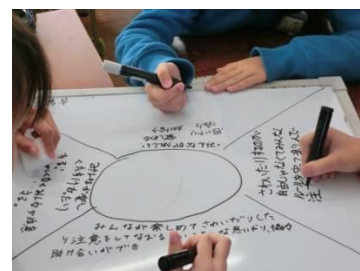
(1) 「道徳槻田プラン」の作成とその展開

道徳の時間を中心として、各教科等、総合的な学習の時間、特別活動など、学校の教育活動全体を通して児童の心を計画的・発展的に育てていくために、学年ごとに決めた重点項目に沿った道徳教育計画「道徳槻田プラン」を作成し、意図的に設定した児童の体験的な活動や、その中で発揮された児童のよさを関連付けた道徳の時間の指導の充実を図った。

(2) 児童の心に響く道徳の時間にするための工夫

① 自分の思いを表現し、互いの考えを交流させるための手立ての工夫

資料分析と事前授業に基づき、道徳の時間に一人一人の児童の多様な思いや考えを引き出すための中心発問・補助発問の工夫に努めた。また、役割演技や心情円盤、発表ボードなど、それを表現させるための活動を工夫し、時間を確保して交流活動を充実させるようにした。



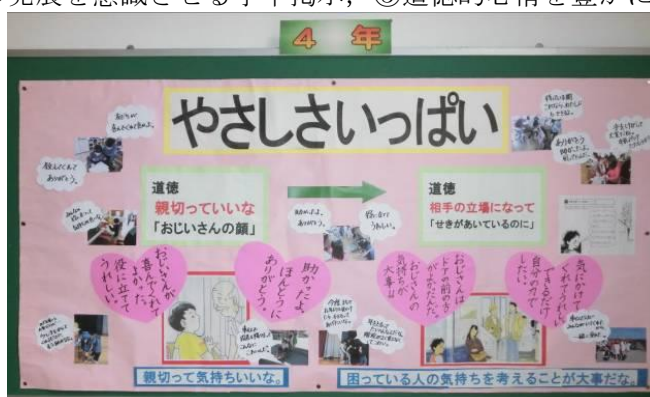
## ② 自分のよさに気付くことができるようにするための手立ての工夫

「道徳槻田プラン」に基づき、様々な学習や活動を補充・深化・統合する道徳の時間を設定し、よりよく生きた自分自身の姿を振り返ることができる学習場面を全ての授業に位置付けた。その中で、自他のよさに気付き、集団のよさを発見することができるように努めた。



## (3) 児童の意識の継続を図る環境づくり

児童に道徳的価値を自覚させ、意識を継続・発展させるために、①授業後の意識の継続を促す教室環境、②槻田プランに基づく学習の発展を意識させる学年掲示、③道徳的心情を豊かにする廊下環境の整備に努めた。



## 3 本年度の成果と課題

### (1) 道徳槻田プランについて

昨年度、道徳槻田プランで各教科等や行事との関連を図り、人とのかかわりの場を意図的計画的に設定したことは、大変効果的であった。本年度は、目指す子ども像に向かって資料を吟味して、段階的に配列するよう見直しを図った。また、教室掲示で授業の足跡を残し、学年掲示で授業発展の流れを視覚化して示した。これにより、児童の意識が連続し、自分のよりよい生き方や成長を再確認することができた。各学年の内容項目のつながりを教師がより明確に意識して、日常の生活や学習における児童のよさや成長を見取り、それを生かした道徳の授業実践に努めた効果は大きかったと考える。

### (2) 児童の心に響く道徳の時間にするための工夫

自分自身の生活を振り返って考えるときに、主題に関わる具体的な場面の写真やビデオを紹介したり、意図的指名をしたりすることで、道徳的価値の主体的自覚を図った。共通の話題で話し合いをすることで、友達の考えのよさに気付いたり自分の考えを積極的に発言したりできた。「槻田プラン」に基づいて、関連する取組を生かし、実態調査から得た情報を使つての意図的指名で、児童一人一人が自分たちの生活を振り返り、自他のよさに気付くことができた。そして、道徳的な心情をもったり、具体的な行動ができたりした自分に満足し、自信を高めた。

1年生の授業後のアンケート結果では、「道徳の学習で自分のよさを感じた」78%、「あまり感じなかった」22%、「友達のよさを感じた」97%、「あまり感じなかった」3%、「自分のことが分かった」72%、「友達のことが分かった」91%となった。

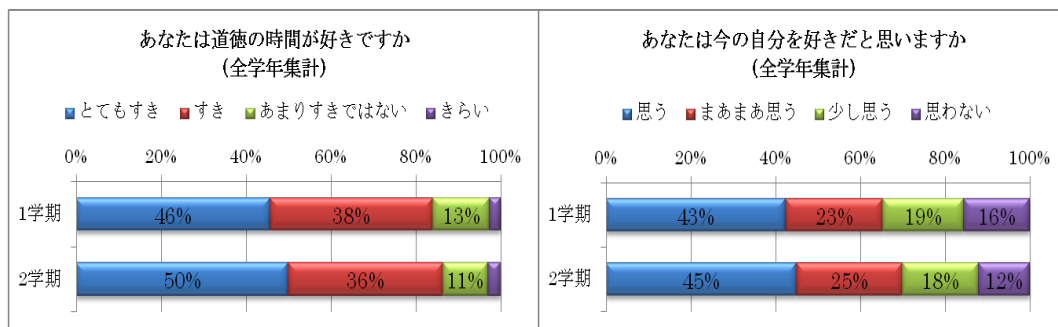
### (3) 児童の意識の継続を図る環境づくりについて

せっかく出会えた道徳的価値を一過性のものにせず、繰り返し振り返って心の中に浸透させ、次の学習へとつないでいきたいとの願いをもって取り組んだ環境づくりであった。

本時の中で出された児童の発言を生かした掲示にすることで、教師の期待以上に児童は関心をもって掲示物を見ていた。また、これをもとに思いがけない場面で過去の学習と関連付けた発言が出だされ、学級で歓声上がることもあり、意識の継続・深化に効果があったと捉える。

【考察】実践前後の調査では、「今の自分を好きだと思う」「自分は諦めないで頑張る方だと思う」の項目で伸びが見られた。これは、自分の成長を実感していることの表れであると捉えられる。

道徳の授業に関する意識調査では、「道徳の時間は好きですか」の問いに「とても好き」との回答が4ポイント向上していた。その理由としては、1位「資料が好き」、2位「先生の話が好き」、3位「新しいことが分かる」、4位「友達のことが分かる」、5位「自分のことが分かる」、6位「自分の考えが自由に言える」となっていた。このことから、児童は資料に感動し、資料を通して新しい道徳的価値に出会うことを楽しみにしていることが窺われる。中心発問についての話合いや、自分たちの生活を振り返る場面において、自分のことや友達のことが分かることも実感していると言える。



### (4) 課題

課題としては、自分の思いや考えを表出させる方法や手立ての工夫を広げていくことである。道徳の内容項目に関わるアンケート調査では、学校全体としては顕著な伸びが見られるが、一部の学年では「あまりできない」と回答する児童が増加していた。児童の意識の低下の原因を明らかにし、改善を図ることが求められる。

研究推進に対しては、検証方法の課題がある。心や行動を対象としているため、教師による見取りや児童へのアンケートを中心とした評価を行っているが、その方法や内容、時期などについて、再考する必要がある。